

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2023. 8. 21
No.32 文責 伊藤

何のために勉強しますか？④

Part2 気の進まない勉強は「できると楽しい」から始めよう

前号で述べたように、勉強が嫌いな日本人もクイズ番組には夢中になることがよくあります。では、どうしてクイズには夢中になって取り組めるのでしょうか？私たちが夢中にさせてくれるクイズには、どんな工夫が隠されているのでしょうか？

ポイントは、「成功体験（＝できた感覚）」です。テストやクイズでいい結果が得られたり芸能人が解けなかった問題を自分が解けたりすると、「できた！」という気持ちになることができますし、心がある程度満たされます。「たくさん成功体験を積ませる」ということは、学校でも取り組んでいるし、本校でもいつも話題に上がり意識しているところですよ。

しかし、学校の勉強とクイズには大きな目的の違いがあります。クイズ番組は、「できた！」という感覚をできるだけ多く与える（＝視聴者を楽しませる）ことに重点を置いて作られています。学校の勉強はそれだけという訳にはいきません。学校は、様々な法規や学習指導要領をもとに作られたカリキュラムに沿って計画的に進めることも求められているので、全ての子に「できた！」という感覚を味わわせる前に次の内容に進まなければいけない場面もあります。もしかすると「できない！」というネガティブな体験を次から次へとさせて、勉強に対して消極的にさせている部分もあるのかもしれない。

でも、「せっかく学びに来ている子ども達をネガティブにさせるだけの学校」というのは、とても寂しいですよ。様々な縛りがある中でも、学校がクイズ番組から学べることもあります。それは、「できる！」と「できない！」のバランスによる『体験の質』です。全てできないのは当然やる気なくなりますが、全て容易にできるのもまたやる必要性を感じなくなってしまいます。「9割方は分かったけど、全部はできなかった。」や「最初はできなかったけど、取り組むうちに何となく分かってきた。」といった経験（「発達の最近接領域」に迫る取り組み？ちょっと違いますかね...）をより多くの子ども達にさせられるような手立て（学習方法、教材・教具、支援のあり方）を日々模索していきましょう。